NIE実践報告

1．タイトル：地方紙で視野を拡げる授業　　～北海道で「琉球新報」を読む～

2．学校名

札幌市立定山渓中学校

3．実践者名（代表者名）

安孫子　和典

4．学年

第３学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会科　公民分野　６名

6．単元（本時の学習課題）名

単元「現代の民主政治と社会」　小単元「現代の民主政治」

7．目標(狙い)

・報道における論説の役割を理解し、報道を通じて自らの考えを深める。
・報道の多面性に気づき、メディアリテラシーを育てる。

8．評価の視点

・報道各社の主張の違いに気づき、立場の違いによるメディアの多様性を理解できたか。
・各社の主張を比較検討して、自分の考えを深められたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

大単元「現代の民主政治と社会」　１９時間
小単元「現代の民主政治」６時間（そのうち「政治参加と世論」２時間　本時はその２時間目）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①日米が普天間基地の辺野古移設を発表した直後の新聞各紙（沖縄の地元紙「琉球新報」を含む）の内閣支持率を比較し、地元沖縄のきわだった数字に着目する。
②基地をめぐる沖縄の現状を解説する。（普天間・辺野古の位置と現状、アメリカ軍による事件・事故の例）
③辺野古移設決定についての各紙の社説を比較し、違いを読み取る。
④自分の考えに近い社説を選び、さらに自分の考えをまとめる。

（留意点）
・各社の社説の読み取りに力を入れるため、沖縄の歴史や現状の説明に時間をとられすぎないようにする。
・社説中のことばのうち、中学生には理解が難しいと考えられるものは、あらかじめ説明しておく。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

普天間の問題は連日盛んに報道されていたのにもかかわらず、授業の前の生徒には基本的なことがらがあまり理解されていなかった。このため沖縄の現状についてある程度の時間をとって説明しなければならなかったが、かえって新たな情報や驚きの多い授業たった。生徒の意見はやはり辺野古移設反対に偏ってしまった。

12．成果と課題

沖縄の問題を沖縄の新聞で学ぶ取り組みは、生徒の関心も高かったし、指導する側にも新たな発見が多かった。北海道の地元紙（北海道版の全国紙を含む）を他の地域の報道と比較し、「全国の視点からみた北海道」をテーマにした授業にも、いつか取り組んでみたい。また、英字新聞を活用して、世界に日本がどのように報じられているかも生徒とともに探求したい。いずれのテーマも取り上げる際にはＮＩＥ（事務局）にご助言やご協力をいただかなければならないだろう。今回の授業では事務局の手を煩わせて「琉球新報」を手に入れたが、たいへん助かった。このようなサポートを相談し、協力いただいたのも今回の成果である。